

# 「コロナ！退散！」と祈りながら自治会の運営を考えています

帯山第六町内  
自治会だより

秋季号  
(第66号)

発行責任者  
帯山第6町内  
自治会長  
緒方 建二



自治会長  
緒方 建二

○自治会のはなし  
今日の自治会は、地域の課題解決や地域文化の継承、町内の皆さんとの親睦（しんぼく）といった活動のほか、区・市などから町内会への情報伝達（回覧版）としての役割を果たしていると思えます。しかし、今年度はコロナ禍の中、町内行事が六年生を送る会の中止に始まり、新一年生の歓迎会・花見・えんがわサロイン・敬老会、地藏祭り等といった町内行事が軒並み中止を余儀なくされました。また、長寿会や婦人会の様々な活動も中止され、校区の行事でも夏祭り、校区体育祭が中止されました。その結果、前記したような親睦活動は残念ながらこれまで十分に果たされていくとは言えません。しかし、これらの行事の中止は、自治会のあり方をあらためて考える良い機会ではないかと思っております。

現在も公民館・憩の家の休館は継続中ですが、まつたくの使用禁止ではありません。そこは、三密（三つの密：密閉、密集、密接）を避け、換気、手の消毒を守りながら、何とか工夫して公民館を活用していただく方法はないものかと思案しております。いつ終息するか見当もつかないコロナですが、皆さんと一緒に活動を始めてまいります。

○自治会だよりのはなし  
この自治会だよりは年に四回発行しておりますが、今年度に限っては編集者泣かせだそうです。今月号（秋季号）も、いつものならば地藏祭りや敬老会の行事の記事や写真で紙面が足りないほどに悩むのですが、今年度はコロナ禍のせいです。すべての行事が中止になり、編集担当の理事はどうやって紙面を作ろうかと頭を抱えていました。しかし窮すれば通ずる、敬老会の記事の代わりに「あれから幾歳ぞ、嗚呼わが青春のメモリーズ」と題して長寿会の役員の方々に

二十歳の頃の工ピソードを執筆していただいたので、うです。どれも個性的で、話ばかりです。執筆苦も久しぶりに書く文章に苦勞しながらも、当時の自分には思いません。楽しゅうか。文章のハザマから笑みがこぼれているようにです。私にも今回願います。自治会だよりは、執筆・写真・構成・レイアウト等の紙面づくりから印刷までに約一ヶ月以上かかりました。一応その時間経過を考えて執筆をしており、九月二十六日の臨時総会のことをご報告したいのですが、報告しきれないです。新年号をお待ちください。

### 善意のご紹介

ご寄付ありがとうございました

香典返しのご寄付  
令和二年四月七月  
草野キミ様  
朝永正子様



帯山第6町内自治会は、私たちの住む町内が「あんぜん、あんしん、たのしい地域」であるための活動です

### アマビエでコロナ退散

公民館の玄関ホールに「アマビエ親子」を自治会長が製作し置いています。「コロナ退散！」と、お参りすれば、コロナに感染しないご利益があるかもしれません。子ども会のアマビエの塗り絵もあります。公民館にお越しの際はどうぞご覧になってください。



### 地藏祭り作品展開催

今年は感染懸念で神輿巡行は中止し、法要と作品展のみ開催しました。短い夏休みの中、将来性のある力作が多数出品されました。審査は厳正に行われ、表のように決定し、表彰状と副賞が贈られました。また書、絵画とともに、今年には多数の「アマビエ塗り絵」も公民館に展示しました。



書の部門				絵画の部門			
	受賞者氏名	テーマ		受賞者氏名	テーマ		
金賞	4年生 中野早理さん	海と太陽	金賞	5年生 堤田遥さん	くだもの		
銀賞	1年生 ごとうりゆうせいさん	とり	銀賞	1年生 ごとうりゆうせいさん	海水浴		
	2年生 はらもとりさん	いけ		1年生 南 結月さん	かきごおり		
	3年生 小ばたか央さん	勝つ		2年生 山さきさらさん	神社		
	4年生 山崎とうまさん	元気		3年生 橋本理市さん	熊本城に花火		
	5年生 小池悠太さん	未来		4年生 白井玲音さん	ひまわり畑		
	6年生 来島若菜さん	希望		5年生 橋本華奈さん	ひまわり畑にアマビエ		

# 敬老の日おめでとございます

自治会主催の恒例の敬老会は、新型コロナウイルス感染懸念で中止となりました。来年はいつものような開催を祈りつつ、今年**は長寿会役員**の皆様の青春時代の思い出話を執筆して頂きました。（受付順の掲載です）

敬老の日特集

## あれから幾歳ぞ 嗚呼 わが青春のMemories

隣組み

吉田祐子さん

「二十歳」は七十年も前のことで容易に思い出せない。成人式もなく戦後の殺伐としたなか食に飢えた大家族で大変だったこと、世の中が少しづつ穏やかになりつつ、の時代かな。就職して農家の親戚に下宿していた時のことが印象深い。農家の仕事初体験は辛かったけど私の今の人生の礎となり尊い経験だったと有難く思っている。

叔母は農繁期の田植を私の休みに当てる。隣保の応援で私は大勢の食事を任される。前夜から食料の下拵え、水は井戸ポンプ式、煮物は薪で大釜や鉄鍋にいっぱい。早朝から素足で走り廻り一日五食（朝十時昼三時夕）身体はぐったり後片付終わると夜の十二時とたん昏睡。隣保互い助け合い十日ほどで終わる。蓑笠を身に着ける日もある。田植慰労会が盛大である。楽しい美しい強い絆。底抜けの明るさで疲労は解消し宴満喫する。また労働の楽しさ収穫の喜びが共有できたこと。いつの世も人情味豊かな生き方は大切だと痛感する。

私の学生時代

平井乙三さん

五十年前の私は若いとはいえず、その頃流行の歌同様ケ

セラセラ、学校出たら何とかなるの考えでした。映画は加山雄三の若大将がブームで、レザークットの髪型が流行して私も削って同じ髪型でした。田舎の母の期待に反して勉強より田舎出身の私は都会の街にあこがれ馴染む事が先でした。社会勉強中心で色々なアルバイトをやり、色々な職種の方に接した事は、後々プラスになったと思います。四年間の学生生活は過ぎ、地元の代議士の縁で、東京の方に就職するも実社会は想像以上に厳しく、また早慶闘争に、田舎出身の私は将来はないと初めて人生の挫折を味わい、その時初めて母の「若い内苦労、即ち勉強頑張ったら先々人生笑えて暮らせるよ」との一言が判った瞬間でした。

私の二十歳の頃

会長 田上和親さん

団塊の世代の第一期として二十歳の頃はほとんど記憶の外にあります。改めまして思い出します。やはり成人式です。今では一騒動ありますが当時の私は東京の渋谷公会堂で成人式を迎え、皆おとなしい成人式でした。このおとなしい若者達がその翌年だったと思えます。日本中で話題になった学生運動を繰り広げること

私が通っていた大学でも学園封鎖となり、約四ヶ月位休講状態が続きました。そしてさらにはベトナム戦争、第二次安保等の反対運動とも相重なり全国的に広まっていったと記憶しています。思い起こせば、一連の活動を起した学生達も、やがては卒業をし社会人となり、高度経済成長を支えた一員であった事も事実です。と思っっています。

月曜日の男

上野敏昭さん

それは六十数年前の話。まだ安月給で毎日呑みに行けず週一回と決めた。月曜日「新市街へ出るのが唯一の楽しみであった。会社では「あのね、Uさんなね、毎週月曜日には必ず呑みに行かすよ。」と評判に、名付けて「月曜日の男」の誕生である。居酒屋で一本十円のおでんを五、六本、一杯七十円の酒を数杯、ほろ酔い気分二次会へ。たまには専属バンドを持つクラブ「千姫」へ飛び

帯山六町内のご夫婦  
六町内長寿会は楽しいです



六男さん 町子さん

### 公式ホームページ「帯山6町内」 since2009（平成21年） 11年目

#### あとなぎ

中3の昭和39年9月まもなく東京五輪という時台風20号の接近予報でした。昼休み科学部の27歳の先生が突如招集し「今夜台風が直撃する。徹夜で観測だ。翌日の準備をして夕方登校」とニコニコ顔でした。親が教師にグゼる時代ではないのです。2人一組で30分毎に割り当てられ深夜2時の担当でした。暴風雨の中で地面を這うように気圧等気象観測をしました。翌朝記録グラフを見たら接近時は見事な気圧急降下カーブでした。深夜観測で理科室仮眠だったため翌日授業は睡魔でノックダウンでした。

あの頃、私は若かった。昭和四十四年、二十一歳の春、私は東京へ出稼のおぎにいく。寮で管理人のおばいちゃんから水洗便所を使い方を学ぶ。初めて

熊本豪雨災害義援金募集（公民館）



平成31年3月花見での熱唱（合成写真）

入りリクエストで橋幸夫の「潮来笠」や岡晴夫の「憧れのハワイ航路」等を歌い上機嫌で御帰宅。その青年「月曜日の男」も今年の九月で八十七歳である。あゝ懐かしいな！。

知った様にふるまう。東京は革新系的美濃部さんが、都知事だった。歓迎会でまだ名の知れていない「ドリフターズ」の生舞台を見た。おもしろかった。休みの日には、地図を片手に観光。町には「由紀さおり」の「夜明けのスキャット」が流れていた。有楽町、新宿、池袋と山手線を回った。歌声喫茶にも出かけた。でも私は観光が目的ではない。私にはもっと大きな目標があった。それは、手塚治虫氏の虫プロに就職する事。ある日、スケッチブックを持って虫プロをたずねた。結果は、四年制の専門学校卒が採用条件だった。上京三年目で熊本に帰った。